

埼玉県

図書館だより

第 1 号

昭和54年6月30日

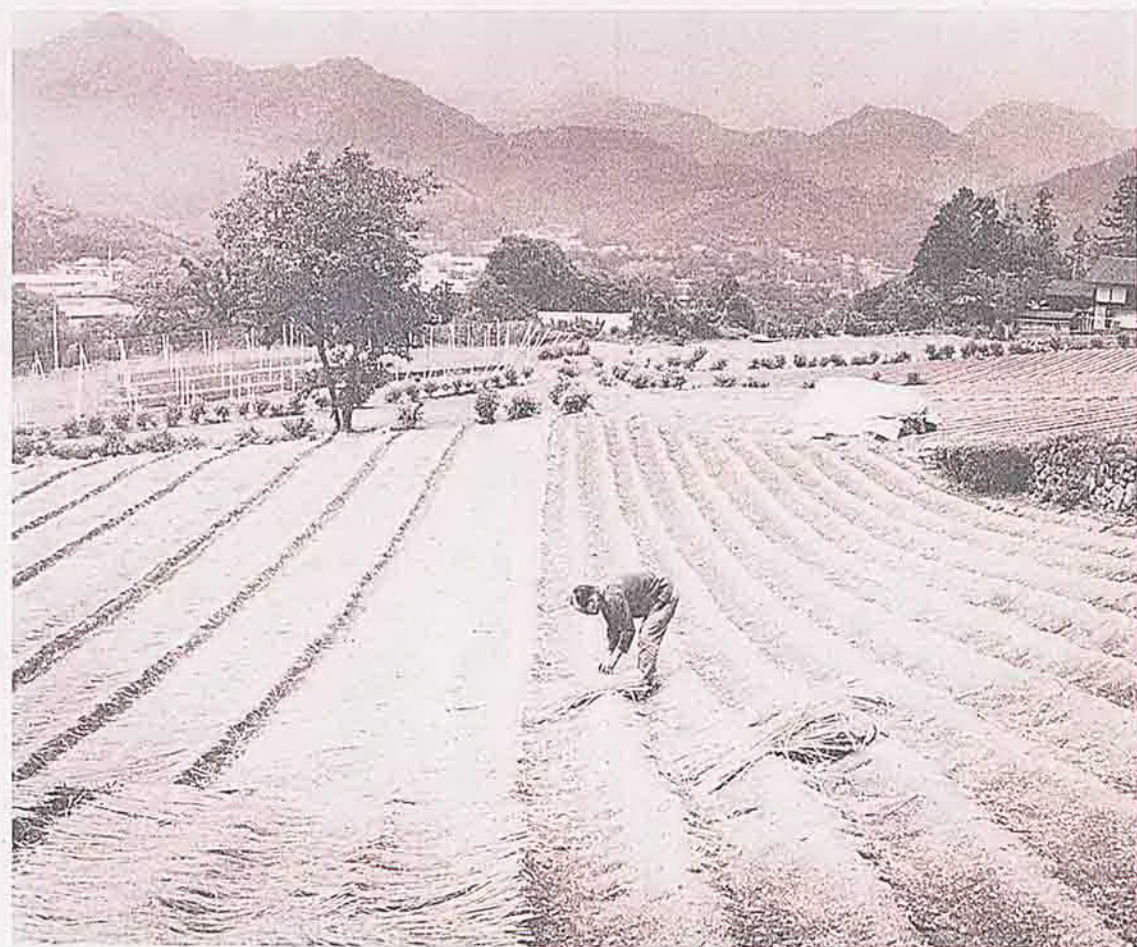
編集 埼玉県立図書館
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館
館長 石川 正明
浦和市高砂 3-1-22

もくじ

- | | |
|--------------------------|---------|
| 図書館に期待する
県民の声…………… | (2) (3) |
| 浦和図書館
雑誌室・おしらせ…………… | (4) |
| 熊谷図書館
稲村文庫・おしらせ…………… | (5) |
| 川越図書館
郷土資料・おしらせ…………… | (6) |
| 県内図書館めぐり・
図書館の周辺…………… | (7) |
| 本のひろば・
おたずねください…………… | (8) |

題字・高橋庄次郎氏



大谷藤子作「山村の女達」の舞台、両神村大平戸の風景。(写真・野沢博美氏提供)



図書館に期待する

県民討論会 発言再録

「地方の時代」にふさわしい文化はどうか、と題する昨年の県民討論会の中で、図書館のあり方が盛んに論じられました。そこでそれらを代表する方々からご意見をいただきました。

子どもの読書のために

土屋 洸子

五年前、子どもがよりよい文化芸術に出会い、豊かな自主性・創造性を育ててほしいと願って、所沢子ども劇場が生まれ、約二十五のブロックに分れて活動しています。

わたしの所属する新所沢ブロックでは、一冊の本を親子で読み、それについて皆で話し合おうと「新所沢親子読書会」ができてから三年になります。

課題の本は、会員のアンケート、他の親子読書会の実践、世話人の研究などをつき合わせて決め、図書館の団体貸出や個人購入で用意します。毎月第二土曜の午後、公民館に三歳から四年生まで約三十名と母親約十名が集り、楽しい親子読書会がもたれます。

感じたことを考えたことを発言し、

うのはうれしい」「もっと本が読みたい」「次は何を読もうか」と本を読む楽しさを知ってほしいのです。



本を読まない、本が読めない子どもが多いというのを聞くことがあります。わたしたちの親子読書会活動での経験から

につくり出していくかということだと考えられます。この、子どもが読書の楽しさ、本の世界の素晴らしさを知り、本に出あうきっかけをつくる場としての公共図書館にわたしたちは大きな期待を寄せています。

子どもの心を良く知り、子どもを豊かに伸ばす立場から、丁寧に選りぬかれた図書。子どもや母親が、読みたい本、読ませたい本を相談したときに、一人ひとりの子どもの成長の度合に応じて適切な本を提供してくれ、子どもを本の世界に導いてくれる児童図書館員。沢山の子どもが

創刊を機にサービスの拡充を

埼玉県教育委員会教育長
石田 正利



「県立図書館だより」の創刊をお喜び申し上げます。常日頃、図書館活動を通じて地域文化の進展に尽力されている県立図書館の職員の皆様方に対し、厚く御礼申し上げます。

本紙の発行は、県立図書館三館で設置された文化活動企画会議で定められたこととありますが、社会教育の進展とともに、その中核としての図書館活動の一層の充実が強く望まれている折から、まことに時宜を得たものと存じます。このように広報活動が拡充さ

れることは、県民にとって県立図書館を一層身近かなものにさせるとともに、図書館の奉仕活動、文化事業の推進にも大いに役立つものであり、成果を心から期待いたします。

来春には、第四図書館が久喜市に開設されることを見ない県立図書館の東西南北配置構想が実現することになります。今後、県立図書館が県下各地の公共図書館と提携を深め、全国をリードするような充実した活動を展開されるよう、願うものであります。

サービスの充実を

工藤 知子

「県立図書館だより」の発行おめでとうございます。これを機会に埼玉県の図書館網がより一層充実することを切望いたします。

私は、春日部市のはずれにある武里団地で地域子供文庫（四小学校区対象、登録児童は約一七〇〇名）を、三十数名のお母さん達と一諸に、世話人として五年間運営してまいりました。

その中で、県立浦和図書館の方々や特に春日部市立図書館の協力にはいつも感謝しております。文庫の蔵



埼玉県知事
畑 和

創刊に寄せて

多忙な暮らしのなかで寸暇を見つけ、読書にふけるときほど楽しく、すがすがしい気持ちになることはありません。私は、この幸せな場が、いつでも、どこでも、だれでも味わえるよう



書約五千冊の大半は市立図書館からの団体貸出を受けています。選書は私どもで行ない、図書館で一括購入をするシステムです。

昨年十月からは、団地内の公民館に常設の図書室ができ、週二回開けるようになりました。今年の秋までは、大人をも対象にする春日部図書館の分室を開くべく案がねられています。しかし、日野や町田の図書館を見て来た者にはまだまだ前途

農山村に読書の場を

新井 晋

農村地域の文化施設とりわけ読書施設の充実について考えてみたい。

けるようになりまして。今年秋までは、大人をも対象にする春日部図書館の分室を開くべく案がねられています。しかし、日野や町田の図書館を見て来た者にはまだまだ前途

見が多数寄せられたことを思い出します。

県民と図書館の絆に

す。そういえば、昨年、文化について論じられた県民討論会でも、図書に、本に親しむ県民の心の糧になる館の在り方などについて貴重な御意

この「図書館だより」が

文明の進歩にともない図書に接する機会が格段に増加している。昔は必要な図書は手写したものであるが現在では書店の店頭で溢れている。図書館の発展も著しい。県立図書館の蔵書数の増加や貸出冊数はそれを如実に示していると言えよう。

浦和

新聞・雑誌が増えました

隣の県の地方紙も読めます

当館の新聞・雑誌室が設けられたのは昭和四十七年です。そのねらいは、図書館のもつレクリエーション的機能をも考えあわせて、趣味や娯楽、スポーツ関係等の雑誌を数多く備え、ゆったりとした雰囲気の中で、直接、資料を手に自由に読書できる場所を確保するところにあります。またそれによって図書館を気易く親しみのもてるものにできたらとの願いもありました。

その後、何度か運営の改善などを行ってきましたが、発足の当初の段階では、新聞・雑誌の点数は、購入・寄贈あわせて約五七〇種類だったものが、昨年度は、新聞一九四種類（内購入二九）、雑誌二九七種類（内購入二五六種類）を数えるまでに成長してきました。

そして、今年度、新聞・雑誌の購入予算がふえたのを機会に、新しく新聞八紙、雑誌三七誌を購入することになりました。

新聞では、関東及びその周辺の各県を代表する、主要な地方紙、すなわち『千葉日報』『神奈川新聞』『いはらき』『下野新聞』『上毛新聞』『信濃毎日新聞』の六紙を新しく五月から購入することになりました。今後とも計画的に地方紙の収集に努め、いずれ全国の主要な地方紙を網羅し、全国紙の紙面には載らないような地方の生活に密着した、ホットな話題・情報に図書館の場を通じてふれられる状態を早い時期につくっていきたいと考えております。今年は、そうした計画の、いってみれば第一歩次と考えてよいかと思えます。

それから、専門紙として今年度から購入することになったのは、『日経流通新聞』（週二回、日本経済新聞社）と『日本教育新聞』（週刊、日本教育新聞社）の二紙です。

最後に今回新しく購入することになった雑誌のタイトルをいくつかご紹介しましょう。

- 本の雑誌（季刊 本の雑誌社）
- 解放教育（月刊 明治図書）
- 季刊人類学（季刊 講談社）
- 子ども世界（月刊 けやき書房）
- 使者（季刊 小学館）他

熊谷

この文庫は本県の郷土史研究に大きな業績を築かれた稲村坦元氏が、五十数年にわたって、自分の研究調査のために集められた資料の一部で、約千五百冊の図書および小冊子から構成されています。

「稲村文庫」をご利用ください

貴重な地方史誌類

稲村氏は、はやく大正の初めから東京府史蹟保存調査嘱託となり、昭和三年埼玉県史編さん主事を嘱され、その翌年には埼玉郷土会を組織して、当時としては唯一の郷土研究誌「埼玉史談」を創刊し、以後、武蔵国全域を対象として史的調査研究の道を歩んできた方であって、その集められた資料も地誌・歴史関係を中心に、広く関東一円にわたっています。

なかでも東京関係の資料は、量的にも質的にもその中核をなすもので、昭和十年刊行の「東京府史」をはじめとして麻布・足立・荒川・江戸川・大田・大森・葛飾・小石川・江東・芝・城東・世田谷・深川・文京

巡回日誌から

五月〇日、さわやかな五月晴れ若葉の匂う山間の駐車場、開館いちばんのりは野良へ行く途中の農家の人。

移動図書館

「夜、本を読むのが楽しみだね。」
「この利用者はバラエティに富んでいる。孫といっしょに絵本を選んでいるおばあさん、料理や手芸の本を借りにくるお嫁さん、夜、本を読むのが楽しみだね。」

とかけつけてきた。秩父路に点在する小集落の駐車場。地形上利用者は少ないが、大事に育てていきたいものである。

おしらせ

児童奉仕研究会

1階ホール
9月20日 図書を中心とした児童文化について
―― 第一回 講師 本田和子氏
午後1時30分～4時 詳細は子ども室あておたずねください。

おはなし会 1階鑑賞室
毎月第1・4土曜 午後3時～3時30分 10歳以下の子どもを対象に「グリム・日本むかしばなし」他
映画会・コンサート 1階鑑賞室
○第3水曜アニメーション映画会
7月18日―はだかの王様他2本
8月15日―黒姫物語 午後2時30分～3時30分
○第2土曜映画会
8月11日―世界の屋根の子どもたち他。午後1時30分～3時
○第3土曜レコード・コンサート
7月21日―中南米音楽レゲエ。
8月18日―ジャズボーカル。9月19日―シャンソン・カンツォーネ
午後2時～4時
ハ常設展示V二階入口左側 7月―埼玉の芸能。8月―手づくりで個性ある暮らしを。9月―メキシコ。

カウンター

子ども室にはときどき、思いがけないお客さんがやってきます。「ウエアラ― イングリッシュブックス？」
「Where are English books?」
「アリガト、サヨナラ」
とうれしそうに手をたたいて、お兄ちゃん「グリム童話集」を、下の男の子はボターの「ピーターラビット」の絵本を棚からとり出して読みはじめました。

日本にきてまだ三日めという二人は、しばらくして両親を迎えにくるといきました。遠い外国の図書館でおなじみの絵本にであつた子供たち、とつてもうれしかったのかな。

・本郷の各区史、池上町史、定本町史、青梅、小金井市誌、稿本三田村史など多数の市町村史が集められ、この分野の資料が少なく当館にとつては、まことに得難い蔵書といわなければなりません。

その他に、江古田村名主文書、府中市史史料集、池上家文書等の史料集が含まれているのも、より一層この文庫の価値を高いものにしていきます。

また、各地の寺院関係の資料、史蹟・文化財の調査報告書が多いのもこの文庫の特色の一つで、神仏分離史料、東京都社寺備考、浅草寺誌、その他寺院の縁起、僧伝などの資料と、群馬・栃木・神奈川等各県の史蹟調査報告書なども貴重な資料群を構成しています。

埼玉県関係の資料では、珍しいといえるものではありませんが、飯能郷土史、下忍村史、深谷町誌等、今では入手困難な資料が含まれています。歴史の浅い、したがって古い資料の少ない当館の郷土資料を補う上でも貴重な文庫といえましょう。

映画会

○金曜映画会
7月27日―メキシコ特集
12時15分
8月10日・24日―夏休み親子映画会―午後1時
9月7日・21日―風俗紀行―12時15分
○名作映画鑑賞会
7月21日（土）「望郷」（カラ）
8月21日（土）「氷雪の門」（カラーワイド）
いずれも午後1時30分

名曲鑑賞会

7月25日（水）―ピアノ奏鳴曲「月光」ほか―
8月29日（水）―ショパン練習曲―
9月12日（水）―帰去来―
◇映画と音楽の集い◇
9月8日（土）午後1時30分



会場 深谷青年の家 ―映画「神田川」ほか―
展示（2階閲覧室）
シーズンブックス「夏にちなんだ本」 8月1日～30日

川越

近世の川越をさぐる地誌

〈郷土資料〉「川越素麺」ほか

川越は「江戸の母」ともいわれ古い城下町です。そこで江戸時代の珍しい川越関係の地誌を三篇ばかり紹介してみよう。

○川越素麺(かわごえそうめん) 現存する最古の川越の地誌です。おもしろい書名ですが、土地の名産である素麺に由来しています。著者は川越城主、秋元涼朝(一七七一―一七九二年)に本書未定稿のまま死去しています。川越の町名、旧跡、社寺などのいわれ、当時の情況などが記述されているほか珍談、奇説も収載されています。数種の写本があり、川越市立図書館が所蔵しています。刊本も数種あり、川越市立図書館、県立浦和図書館にあります。

○多濃武野雁(たのむのかり) 川越城主秋元涼朝の家臣といわれる大陽寺盛胤が宝暦三年(一七五二年)に著わしたものです。川越の大意、名産、川越城築城の次第、城主の年譜、社寺の次第、城内、城下町、近郊の来歴、伝説、妖怪話、古跡、各寺院

にある有名人の墓碑などが記述されています。著者が武士のためか、侍屋敷、武家に関する事柄がくわしいのが特色です。数種の写本があり、川越市立図書館、県立浦和図書館でも所蔵しています。また新訂増補埼玉叢書第二巻(稲村坦元編 国書刊行会 昭和四十九年刊)にも所収されています。

○三芳野名所図絵(みよしのみえいし) 「この町にも図書館が欲しい。」「私の村にはいつ図書館ができるの。」という声にこたえて、比企・入間地域の山あいの町や村に、小さな図書館が二年前から次々と誕生しています。

町や村に

ミニ図書館が

都市部に比べると、読書のための条件が必ずしも恵まれているとはいえないこうした地域の人々こ

配本所

そ、より強い図書館設置の要求をもっていました。元の学校を改造した越生町、旧役場を模様変えた都幾川村や新設のコミュニティセンター内に出来た滑川村等々のミニ図書館。町村が購入し寄贈を受けた図書に県立図書館配本所としての二千冊を加えた数千冊の蔵書を各町村の人々は積極的に利用しています。産声をあげたばかりのこのミニ図書館の成長が期待されます。

県内図書館めぐり

鴻巣市立図書館

図書の貸出冊数九四八三九冊(約五倍)登録者数八四一人(約一・五倍)全人口に対する登録者の比率一六%。これは鴻巣市立図書館の昭和五三年度の利用実績です。(ここ内は対前年度比)

この図書館が教育委員会内に開設されたのは昭和三八年。その後四三年に旧館に移って一〇年余り、昨年六月市民待望の新館が開設して以来一年、いま六人に一人の市民が登録者という数字が示すように、図書館のサービスは大きく根を拡げてきました。

鴻巣駅から歩いて数分の市街地中心部に位置するさわやかな白壁の四階建て。一階が駐車場、二階に事務室・郷土資料室、さらに同館ご自慢の映写機・ヴィデオなどの各種機器が集中的にコントロールできるシステム化された視聴覚室等があります。三階は開架書庫(現在二万五千

冊)と閲覧室。四階はじゅうたんをしきつめた子ども読書室(約八千冊)と展示室・研修室です。館長補佐の長島さんは飛躍的に利用の伸びたこの一年を振り返り、「婦人子どもを中心に利用が急増しています。新館開館にともない新鮮で魅力的な図書が増えたこと(五三年度資料費二三五〇万円、今年度一五〇〇万円)。地理的な条件の良さに加えて、子どもの工作教室をはじめ各種の催し・展示等も積極的に行うなど、まず市民に図書館に近づき親しんでもらうことを目標とした運営に努めたこと。これらがその要因でしようか」と語っています。

また今後の課題を「郷土資料の充実など、一層市民に役立つ図書館をめざすこと」と結んでいました。

検討すすむナショナルプラン

県公図協総会講演から

県公共図書館協議会の総会が、五月二十二日浦和市で開かれました。総会に引続いて行なわれた講演で、奥野定通(都立中央図書館)、斎藤力(県立熊谷図書館)両氏から全国公共図書館協議会が構想を練っている「図書館の全国計画」の概要と、それを補強する図書館理論―豊かで住みよい地域社会と公共図書館―が発表されました。

図書館は国民の知的欲求にこたえる生涯にわたる学習の場として多くの人々に期待されています。しかし、自治体の財政基盤の弱さ等による施設整備の遅れや、専門職員の不足などの困難な状況のもとで、十分にその使命を果たしているとはいえません。さらに国としての図書館政策が必ずしも明らかではないという点も、わが国の図書館の振興発展の隘路となっています。

「全国計画」は、こうした状況を打開するために、

一、図書館活動の基盤整備の方向と対策
二、人材の確保と資質向上への対策
三、ネットワークを可能にする条件整備の方向と対策
四、ネットワーク・システムの研究
五、図書館利用促進のための教育の普及

などとなっており、今後六年間に研究・討議を重ねて最終試案がまとめられる予定です。

同時に発表された「豊かで住みよい地域社会と公共図書館」(第一次草案)は、多様な国民生活との関係に力点の置かれた図書館がうたわれており、広く国民に訴えようとする意欲がうかがえます。これはさきの「全国計画」の基礎理論となるべきもので、各図書館において検討が加えられた後に、関東甲信越ブロック等全国七ブロック単位で協議され、全国計画調整委員会が最終的に決定される運びとなっています。



(鴻巣市立図書館全景)



映画会
○優秀映画鑑賞会
毎月第1土曜日
午前10時・午後2時の2回
○夏休み親子映画会

7月24日・8月7日・8月14日・8月21日・8月28日
午前10時・午後2時の2回
移動図書館
○緑蔭図書館
8月中、入間・比企地区内の4町村で開催予定
○比企地区内移動図書館利用者のつどい・研究発表会
9月下旬・東松山市立中央公民館
土曜レコード・コンサート
8月18日・8月25日 午後1時30分から
○文学散歩
打木村治著「天の園」のふるさとを訪ねる。
9月27日(木) 定員一〇〇名
参加費三五〇〇円
申込期間は8月1日から8月30日まで。定員になり次第締め切りです。
詳細は当館あておたずねください

今年、国際児童文学を知るための本

今年「国際児童文学」——一九五九年の国連総会で「児童の権利宣言」が採択されてから二〇年になります。

一五億をこすといわれる世界の子どもたちが、はたして宣言のべら

れている諸権利を保障され、適切な

環境の中で生活しているかどうかを

反省する機会とされています。埼玉

県では「子ども動物自然公園」を建

設するのをはじめとして、多彩な事

業を推進しています。各県立図書館

でも子どものための催し——例えば

川越図書館子ども室では人形劇・読
みかせ・世界の絵本展——を計画
し、児童へのサービスをより充実さ
せようとしているところ
です。

そこで今回は子どもの

生活に深くかかわる児童

文学研究書や資料の一部

を紹介してみましよう。

昭和四〇年代になると

すぐれた児童文学書や雑誌の複刻本

が出され、五〇年代に至り児童文学

本のひろば

の体系的なテキストが出版されてい

ます。童話・少年少女小説などのす

ぐれた作品を集めた「日本児童文学

館」(ほるぷ出版)、明治期からの

絵本を中心に「絵本・絵ばなし集」

(ほるぷ出版)をはじめ、「キンダ

ーブック」(フレール館)、「赤

い鳥」(日本近代文学館)

「日本児童文学体系」(ほ

るぷ出版)などです。

一方、児童文学を研究す

る者にとって必携の参考書

に、「日本児童文学史年表」

(明治書院)、「児童文学研

究必携」(東京書籍)があります。

さらに外国児童文学の研究では、

ヒューリマンの

「子どもの本

の世界」(福音

館)、ドラット

ルの「妖精の世

界」(研究社)、

ベッテルハイム

の「昔話の魔力」

(評論社)な

ど。また児童文

学研究誌も「日

本児童文学」な

ど多数発行され

ています。

レファレンス・サービスとは？

毎日の生活の中で、「こんなことが知

りたい」「これについて調べたい」とい

うことがよくありますね。そんな時はす

ぐに図書館に電話をするか、お出かけく

ださい。

「参考事務課」(浦和)「調査相談

課」(熊谷・川越)。ちょっといかめし

い名前がついていますが、ここがいわゆる

レファレンス・サービスを行うところ

です。

レファレンス・サービスとは、一口で

いえば、皆さんのくらしの中で生ずるあ

らゆる疑問に、図書館の資料をフルに使

ってお答えすること、またその為の資料

を準備する仕事です。自館で解決しない

事例は他館・関係機関への問い合わせも行

いながらお答えしています。

最近の事例では「あやめと花菖蒲の見

分け方は?」「動物園の飼育係になるた

めの資格は?」「武士が両刀差しになっ

た時期と理由は?」などがありました。

次回から解答例をご紹介します。

表紙のことば

小森川と薄川の合流点に近い両神
村役場から、小森川の溪谷に沿い、
徒歩約十分で大谷藤子の代表作「山
村の女達」「釣瓶の音」「再会」等
の舞台となった大平戸の集落につ
く。ここ神々の里に立つと、生きか
わり死にかわりして守り通した山村
の人々の心がひたひたと感じられる
ところである。

大谷さんは、女流文学賞を二回も
受けたという数少ない作家でもあ
り、同人の内地文子さんも、彼女を
さしてこう語っている。「結城の手
織のように、作風はしづい……」

ともかく、山村に生きた人々の葛
藤の様がじかに感じとれるこのうえ
ない文学コースである。

編集後記

図書館と利用者を結ぶ「図書館だよ
り」を創刊しましたのでお送りいたしま
す。

知事はじめ教育長、題字を賜った高橋
県立図書館協議会議長さん方、また投稿
をいただきました皆様から御礼申し
上げます。

八名の広報代表委員と担当者は、はじ
めての編集にともかく精いっぱい、切に
ご愛読の程をお願いします。

おたずねください

毎日の生活の中で、「こんなことが知
りたい」「これについて調べたい」とい
うことがよくありますね。そんな時はす
ぐに図書館に電話をするか、お出かけく
ださい。

レファレンス・サービスとは、一口で
いえば、皆さんのくらしの中で生ずるあ
らゆる疑問に、図書館の資料をフルに使
ってお答えすること、またその為の資料
を準備する仕事です。自館で解決しない
事例は他館・関係機関への問い合わせも行
いながらお答えしています。

「子どもの本
の世界」(福音
館)、ドラット
ルの「妖精の世
界」(研究社)、
ベッテルハイム
の「昔話の魔力」
(評論社)な
ど。また児童文
学研究誌も「日
本児童文学」な
ど多数発行され
ています。